

自転車のルールを学ぶ「自転車検定」を通して
クルマ脳に染まりきったニセ常識から脱却する

文：理事 内海 潤

事務局：〒166-0011 東京都杉並区梅里 2-6-3

TEL 080-3918-2932

FAX 03-6316-9170

URL <http://www.cyclists.jp/>

まさに「自転車操業的」活動

自転車活用推進研究会活動紹介の第2回は、自活研事務所に居候している理事の内海が担当させていただく。前回の記事で小林理事長が奇しくも「自転車操業的活動」と紹介したが、まさに私も同じ状況で、脱サラして事務所を構えたけれども食えなくて自活研事務所に居候を決めこんでいる。自転車操業という言葉は漕ぎ続けなければ倒れてしまうという意味だが、かのアインシュタイン博士が人生と自転車は似ているという言葉を残しており「自転車を漕ぐことは生きることそのもの」なのだと言手に解釈して納得している次第である。

自転車は純粋に楽しむものであり、仕事にしてはイケナイのだ、というどなたかのありがたい訓話も、今日となれば一考の余地があるけれども、既にここまで歩いて来たのだから、



アインシュタイン博士
Life is like riding a bicycle.
To keep your balance you must keep moving.

どこかに辿り着くまではあきらめず歩み続けて行きたいと思っている。

おかげさまで少しずつではあるが、自転車の専門家として仕事ももらう機会も増えてきた。食える状態にはまだ程遠いけれども、自転車は21世紀の乗り物だと信じて疑わないし、諸外国の例を引くまでもなく、我が国においても今後、ますます正しい使い方が広がるだろうから、その過程の中で存在感を示していくことができれば、何とかサバイバルしていけるのではないかと期待している(乞うご支援)。

「自転車検定」の復活

そんな私だが、2012年の年明けにひとつの出会いを経験する。小林理事長の紹介で、京都に本社を置く株式会社アーキエムズ取締役の大槻紘平さんを訪ねたのだ。今回の自転車検定復活は大槻さんの存在なしには語れない。彼は仕事を通して自転車のルールやマナーが守られていない現状に直面し、これを憂い、エシカル・サイクル・オーガニゼーションという独自のプロジェクトを展開していたが、自活研が以前始めて頓挫した自転車検定に着目し、「復活に向けて一緒にやりませんか」と声を掛けてくれたのだった。実は今回に先立つこと4年前の2008年に一度、自転車検定をスタートさせたのだが、あまりにも問題を難しくしたことが主な原因で受験者数を獲得で

きなかったのだ。

時は流れ、2011年3月の東日本大震災で必要に迫られて自転車に乗るようになった方が増えたところに、同年10月の警察庁通達でメディア報道が相次ぎ、更に関心を持ってくれた流れを絶やさないように、自転車のルールやマナーを検定で身に付けてもらおうと、ひと肌脱いでくれることになったのだ。自活研として懸案事項のひとつであった検定の復活は願ってもないこと。私は新たなミッションを持って邁進することになる。

知っておいて欲しいことを問題に

2008年の旧検定ではマスター級、ドクター級、プロフェッサー級の3段階だったこともあり、当初は初級、中級、上級と3段階に分けて問題作成に当たった。有志による作問委員会を開き、問題の中身について熱く議論した。席上で大槻さんから「無理に中級を設ける意味があるのか」という疑問も出て、当初は初級と上級の二段階で再開することにした。

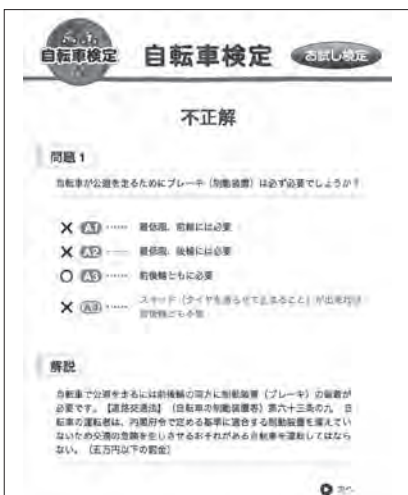
旧検定の問題をひと通りおさらいして、使える問題は再利用することにして、前回の反省点を踏まえて初級問題の大半は新設した。初級問題は最低限知っておいて欲しい内容を中心にするため、ルールに関する問題が多くを占める構成で行こうと決めた。私が講師を務める東京サイクルデザイン専門学校の生徒達にも協力してもらって問題を磨き上げた。



オンライン検定のみで展開

自転車検定はオンライン受験のみである。これは将来どうなるか未定だが、会場を借りて出来るレベルまでに成長してもらいたいと願っている。問い合わせの中には紙の試験はないのかとか、カンニングし放題なのは構わないのかといった質問があるが、それらは全て織り込み済みである。

結論から言うとカンニングはOKだ。何を見て答えてくれても構わない。但し一問あたり60秒以内に四択の中から正解とおぼしき答えをひとつ選択しなくてはならず、設問を読むだけでもかなりの時間がかかるので現実問題としては難しいはず。この際に正しい知識を覚えてもらうことこそが主眼であり、合格は目標になるけれども、我々としてはむしろプロセスの方に重きを置いている。だから手間をかけて、出題する問題も毎回プログラムで変更している。間違えた問題の解説を読む時間は無制限に設定してあるので、どこを間違えたのかしっかり理解して進んでもらうことが重要なのだ。



お試し検定の解説画面
間違った問題の解説を読むことで、正しい知識を習得してもらうことが検定の目的

ホームページ作成でトラブル発生

旧検定同様、オンラインのみで行こうと決めて、ホームページの制作

に取り掛かった。過去に仕事を依頼した実績のあるWEBデザイナーに相談したら何とか出来そうだとするのでお願いしたが、途中で仕様の変更が多過ぎることやシステム運営について個人では責任の荷が重すぎるという理由で辞退されてしまった。目標とした日程が迫っている中で急な話だったが対応せざるを得なかったもので、結局、従来から自活研のシステムを一手に担当しているIT企業にお願いすることにした。結果的に文句も言わず短納期で仕上げてください、彼らに発注したのは正解だったが、一時は顔面蒼白になったことを思い出す。

ついにカットオーバー！

いよいよ5月28日の午後3時が来た。初級編のカットオーバー予定日である。トラブルもなく拍子抜けするほど静かな船出となった。但しお試し検定という無料体験コーナーで当初10問に設定していたのを、後日5問に減らした。8問以上で合格としていたが、有料問題に進む前に力尽きてしまっていることが判明したからだ。自活研メンバーには積極的に受験を促していたが、最低これだけは知っておいて欲しいと選んだお試し検定の問題が難しいと言われてショックを受ける。もっと易しくすべきかという議論もあったが、この程度はできて欲しいので手を付けない事にした。

一カ月後にレースや歴史に関する問題が中心の上級編を、続けて小学生を対象にしたジュニア編をカットオーバーし、ようやく自転車検定の

陣容が揃ったのだった。企画が動き始めて半年が経っていた。

今後の課題は存在感を増すこと

何とか無事に復活を果たした検定だが、今までのところ受験者数が伸びてない。自転車に関わる仕事をしている人たちには是非とも受験してもらいたい。自身で自転車に詳しいと思っても案外知識が偏っていたり、歴史的な事実を知らなかったりするものだ。クルマを交通手段の最高峰と考えることを自活研ではクルマ脳と呼んでいるが、クルマ脳になっている人には難しいかもしれない。

既に保険会社の社員など手慣れたクルマではなく、自転車の事故に対応する可能性が増すであろう人の中には重要性に気付いて受験してくれる人もいる。一回で合格できずに再度挑戦して合格する人もいて、記念にと紙の賞状(有料)を希望する人も多い。自転車のプロを自認するならば、業務以外の関連知識も持っておくべきではないだろうか。今後、検定で正しい知識を持った一般人が増えて来たら確実に困るからだ。まずは自転車業界から自転車検定の受験者を増やして、例えば「業界に就職するなら自転車検定を受けておこう」というムーブメントを起こして行きたい。

もちろん将来的には自転車に乗る日本人全員に受験してもらって、安全快適に走れる環境を整えて行くことが我々の大きな目標である。そのためにも検定の存在を知ってもらわなければならない。あらゆる機会を捉えて広報し、普及活動を続けて行きたい。

PP

「自転車検定」を始めました



インターネットで、いつでも受験できる「自転車検定」サイトを設けました。無料のお試し検定も行っています。自転車活用推進研究会のホームページ <<http://www.cyclists.jp/>> からどうぞ。